第１回韓国カトリック大学日本言語文化研修に参加して

カトリック大学言語文化学部３年
パク・チルソン（日語日本文化専攻）

8月5日から11日の7日間、日本の信州大学で行われた日本言語文化研修に参加した。年を取って勉強している私にとっては若い学生と行くのがすこしはずかしかった。しかし躊躇したあげく、参加した研修は大変有意義であって良かったと思う。ここでは私が一週間感じた事や、学んだ事、研修中に経験させていただいた貴重な体験から日本と韓国との違いなどに考えた事について述べていきたい。

日本へ行くのは今回が3度目、2回は旅行で、研修としては始めてた。今回研修に参加するにあたって、韓流ブームに沿った「韓国の文化についてより広く多くの人に効果的に伝達する」というものがあげられた。自分自身の目標としては3年間学んだ日本語を実際に活用してみること、またツアーでは感じられない、日本の学校のことをいろいろ経験をしたかった。インチョン空港を出発して飛行機で2時間ぐらいで日本の中部国際空港へついた。空港で信大生と先生の出迎えをうけ、そしてバスへ乗り込んで、バスの窓越しに日本の風景を見ながらこれからの研修のプログラムに胸がいっぱいだった。

松本の暑さはソウルとおなじぐらいだが湿気がおおくてソウルよりもっと暑く感じられた。夕食後パートナーが決められた。私はパートナーにすまない気持だった。なぜならたいてい同い年同士でパートナーになったが、恵美さんはお母さんみたいな私とパートナーになった。けれども恵美さんは最後まで私に優しくしてれて本当に感謝している。まず、松本での特別な思いを述べようと思う。はじめに松本ぼんぼんという夏祭りを参加するため、市役所へむかった。市役所で日本伝統着物に着替えて髪形を綺麗にした。私がそこで感じたのは韓国ではなかなか見かけない事だった。70才、年取って仕事を持って働いているお婆さんに私は特別な思いをいだいた。やっぱり世界一番の長生き国の高齢社会の姿だったのでここがこれから私が習う点だと思った。

松本ぼんぼんの夏祭りは大通りで自動車は通行禁止して、多勢の人と歌に合わせ踊り歌い、もとは3時間ぐらい町中を歩き回るのだが私たちは1時間ぐらい踊った。なぜなら大雨で中止になったからだ。けれども踊りながら歩くのははじめての経験たったのでいい思い出になった。それから日本の国宝に指定された400年前に築城された当時の姿そのままの端正な美しい松本城の見学だ。信州大の笹本先生が歴史のご説明をしてくださったのでとても勉強になった。おまけに趣き

のある外観、その当時の建築の技術に驚き、見る価値がある見学だったと思う。

それから信州大学の施設を見学した。そこで感じたのは図書館の雰囲気だった。そんなに暑いのにクーラーは弱かった、けれども学生たちは静かに勉強していた。石油が全然出ないわが国としては考えてみる問題だと思った。その後信大での討論会、授業時間のよう真剣に話題が盛り上がった。私たちのグループの討論内容はお互いに心を開き国を越える友情を育むという事で有えきな時間になったと思う。それから、人文学部での交流会で美味しい料理を沢山食べさせていただき、また、小林ご夫妻からのお土産、私は小林夫婦と10分ぐらいの話を交換した。小林ご夫妻のお話を聞いてて恥ずかしさを感じた。わが国のカトリック交換学生たちにお母さんみたいに美味しい物を手づくりしてくださるし、あちこち見物させてくださるその方の暖かい心に感動した。

四日目の穂高の鐘の鳴丘での二日間は場所も別荘みたいに立派で，それに想像も上回る地域の穂高町関係者の暖かい歓迎をうけ、町の様々な人と接する事ができる夜のパーテイーなどが強く心にのこった。名残惜しかったのは食文化交流会のとき、足りない時間と材料の問題で韓国の伝統料理の美味しさがでなかった事だ。たが参加者のみなさんが喜んで美味しく召し上がってくださったのでとても嬉しかった。それから一泊という短い期間であったが日本の一般家庭の雰囲気に触れることができたホームステイも貴重な経験であった。ご家族皆様がとても親切にしてくださったし、日本の現在の田舎の様子を見ることが出来た。ホームステイの翌日のそば打ち体験は、子供のころ母が手づくりしてくれたのを思いだした。でも、直接やってみたことがなかったので、作るのが考えたよりもむずかしかった。

また、日本と韓国は歴史的事実や教科書歪曲、トクド（編集委員会注：竹島のこと）など国と国の関係で問題点はあるが、今回の研修を通じて個人的な交流関係を築いていくことも重要であることを実感した。過去も重要だが現在と未来も大切なので戦後の世代、若い人たちの役割が必要だと思う。

私にとってはこの一週間の研修で沖先生より学んだこと、市役所ですばやく仕事をなさっているお婆さんから感じたこと、さらに私の学科の友人と親しくなるいい機会になった。率直に言わせてもらえれば、今まで私の学科にしたしみがなかったが今回の研修を通じてもっと親しみももつようになった。そのほか得たことが本当に沢山あった。普通のツアーと違って，充実した一週間だった。授業中以外には日本語で話せる機会がなかったので今回の研修は生きた日本語を実際経験することができた。何より立派な先生方々に心を開き礼を尽くして厚い持てなしをうけたことには日語日本文化を専攻しているのがはじめて誇らしくおもうようになった。

最後になりますが、まず私たちに交流に参加する機会を与えてくださったカト

リック大学関係者方々に心より感謝もうしあげます。そして今回私たちのため一緒にいらっしゃったイ先生、私たちを招いて異文化を経験させていただいた信州大学の沖先生、そして、信州大の先生方と私たちのため献身的活動をしてくれた学生の皆さん、支援をいただいた地域方々にも心より感謝申し上げたい。また，仕事を持ち忙しいところホームステイを引き受けていただいた敏恵さんにも感謝申し上げる。

信州大学学長表敬訪問

日本との再会

カトリック大学言語文化学部３年
2004年度交換留学生
許　庭銀（ホ・ジョンウン）（日語日本文化専攻）

「この飛行機はまもなく、名古屋中部国際空港に到着します」飛行機内のアナウンスが流れた。急に私は、胸が張り裂けんばかりな気持ちになり、我慢できなかった。一度深呼吸した後、心の中で大きく叫んだ。「帰ってきた！」２月に日本を離れて５ヶ月しか過ぎてないけれど、まるで長い間離れていた故郷に帰ってきたような気持ちになった。

個人的な事情で私は、皆より三日先に日本に到着した。夜遅く到着したので、松本までタクシーで行くしかなかった。 名古屋中部国際空港から松本まで約 4 時間。とても長い時間だったけど、私はタクシーに乗ったとたん、堤防が崩れたように日本語で喋り出した。タクシー運転手さんが、松本のような田舎に行くのにこんなに喜ぶ外国人は始めて見たと言うほどだった。国際文化研修プログラムを準備してくれた信州大学の関係者たちには申し訳ないことかもしれないけど、このときだけは文化研修に参加することより、会いたかった先生方、友達、日本の両親に会うことでうきうきしていたかもしれない。このように私と日本との再会が始まった。

２泊３日の個人日程を終えて、私もカトリック大学の文化研修生としてプログラムに参加することになった。だが、おこがましいかもしれないけど、なんだか私は研修生ではなく、お客さんを私の故郷に招待した気持ちだった。実際に韓国から来る皆を迎えに行くバスに中で、どうしたら信州の良さを皆にうまく伝えられるか悩んだりした。まるで、韓国に戻って過ごした５ヶ月の時間がなくなってしまったように感じられた。

松本での日々は一言で言えば「懐かしい」だった。韓国に戻って懐かしく思っていた日本のことを、この文化研修で日本語教育学科の学生たちと、留学生活をしているときにいつも一緒に経験できたらなぁと思っていた韓国の友達と一緒に再び体験することができ、とても幸せだった。その中で特によかったと思っていることは笹本先生の説明を聞きながら松本城に行ったことだった。この時、松本城に上るのが７回目だったけれど、松本城に様々な歴史とエピソードがあったことを初めて知った。とても有益で楽しい時間だった。楽しかったことがあれば、もどかしいこともあった。松本ボンボンのとき大雨で中止になったことである。私が留学した期間の中で、一番楽しかったと言える松本ボンボンを、私が感じたことをそのままカトリック大学の皆さんが感じられなかったのがもどかしくてた

まらなかった。

数日後、私たちは穂高町に向かった。そこで私はホームステイというお金で買えない貴重な思い出をもらった。日本で留学していた10ヶ月、日本の両親もいたし親しい知り合いもいたけど、日本人の家で泊まったことはなかったし、日本だけではなく外国の宅で泊まったことはなかったからだ。たった一日の短い時間だったけど、ホストファミリーの方は私の夢についてアドバイスもしてくださったし、一週間の間韓国の食べ物が懐かしくなるはずだと、大阪の韓国人村からキムチを用意して、食事のときに私の前に置いてくれた。このようにホームステイを通じて私には三番目のお母さんができた。そして、今までも三番目のお母さんの暖かい心が忘れられない。

今回の日本への訪問は、私にとって旅行でもない、文化研修を通じた日本との再会だった。会いたい人と再会すること、懐かしいところに行くことも大きな喜びだったが、新しい出会いもまた大きな喜びだった。新しい世界に出て、新しい出会いをすること。その新しい出会いから学ぶ様々なことは、どの教室でも学べない貴重なものである。私は今、再び信州で一週間勉強する機会をくださったカトリック大学の先生方と信州大学の先生方へ感謝の気持ちでいっぱいである。私は日本にまた来たい。今度は私に良い思い出をたくさん作ってくれた方たちに恩返しをしにもっと成長した私で日本に来たいと強く思う。

最後に、このような良い再会、文化研修を準備してくださった信州大学の先生方、その他関係者方と私たちの栄養バランスまで細心な配慮をしてくれた日本語教育学の学生のみなさんに感謝を申し上げます。「ありがとうございました(カムサハムニダ)」

日韓言語文化研修に参加して

カトリック大学言語文化学部２年
2006 年度受入予定交換留学生
イ・ボラム（日本語日本文化専攻）

今年の夏休み、日韓言語文化研修に参加してとてもいい経験になったと思う。初めての海外で少し緊張したのだが、信州大学の先生と学生が親切にしてくれて、だんだん楽しく過ごせるようになったと思う。そして、日本人と日本語で話すことについても心配していた。

飛行機で二時間。離陸するやいなや着陸してしまったような感じがした。空港で私たちを待っている信州大学の学生たちを見ると、やっと私が日本にいる気がした。

一番記憶に残ることは、松本ぼんぼんをしたこととホームステイをしたことである。浴衣を着たことや町を歩きながら踊ったことなどを通して、日本の文化に接してみられたことだと思う。たとえ雨が降ってきて途中でお祭りが終わってしまったが、とても楽しかった。

ホームステイをする時、あいさつとともに注意しなければならないことをもう学んだが、とても緊張して全部使いきれなかったので、残念だった。韓国では目上の人とお話をしたことがあまりないので、敬語と丁寧語が下手だった。ホームステイのファミリーと話しながら、私がまだまだ不足すると分かってきて、はずかしすぎた。また、もう一度ホームステイのファミリーと会ったら、韓国のことをもっと話そうと思った。

そして、食文化交流会の時、新聞記者とのインタビュー後、どうして私が日本語を勉強しているのか、私が日本のことをどう思っているのかについてじっくり考えることになった。

1 週間ぐらいの短い時間だったが、私にとっては、多くのことを感じられた機会になったと思う。そして、言語も文化も異なるが、意志の疎通ができたことも楽しかった。みなさんのおかげで、絶対に忘れられない思い出ができてとてもうれしい。これからも信州大学とカトリック大学の交流を通して、共々に文化や価値観の差を理解できるようになればいいと思う。

日韓言語文化交流研修に参加して

カトリック大学言語文化学部２年
姜　明蘭（カン・ミョンラン）（日語日本文化専攻）

まず簡単に私の自己紹介をしようと思います。私は年を取ったおば学生で、２００２年ワールドカップのボランティアをしたのと、日本の学生が私の家でホームステイをしたのを切っ掛けになって、日本に興味が沸き、日本についてもっと知りたいと思って、年を取ったにもかかわらず大学へ入学することになりました。

韓国の夏休みが始まって、一ヶ月待ち遠しくて、日本の信州大学日本言語文化研修へ出発する日が近づくにつれて「ワクワク」「ドキドキ」の気持がますます強くなりました。今回研修に参加するにあたって、全体の大きな目標として「韓国では経験できないことを学び、できるだけ多くの人と触れ会うこと、コミュニケーションすることを心掛け、研修に臨もう」と考えました。

とうとう名古屋空港で飛行機から降り、バスに乗り、高速道路を走っている時、窓から周りの風景を眺めながら韓国にも似ているような気がしました。山々にたくさんの木が茂っていてとでも素晴らしかったです。自然保護がよくできていると感じてうらやましいと思いました。

二日目にはわたしは松本ぼんぼん祭りに参加しました。一度は着てみたいと思っていた日本の浴衣を着て、祭りに参加することができて、忘れられない思い出となり感動しました。市役所が中心になって、ボランティアの人々が浴衣を着かせてくれたり、髪を飾ってくれたりしました。みんなが浴衣を着たら、だれがどの国の人か区別することが難しかったです。特に私の髪を飾ってくれた方は、７０才を越えだと聞いてびっくりしました。韓国にはそのような年を取った人が社会的に活動することはほとんどなかったので印象的でした。初めは雨に降られて浴衣が濡れて少し心配しましたが、大勢の人々が町を歩きながら音楽に合わせて踊るのは、日本ならではの素晴らしいことでした。私は踊るのが下手だから、なかなかできなかったのですが独特な雰囲気で素晴らしかったです。日本の祭りみたいな物が私の国にもあったらいいと思いました。なかなか出来ない体験をして嬉しい限りでした。

三日目には松本城を見学しました。松本城は北アルプスや美ヶ原高原の山並背景に立つ松本市のシンボルと言われました。現存する天守閣としては犬山城、彦根城、姫路城、松本城が国宝に指定されている名城でした。１５９３年頃に建ってだと推定され戦闘に有利な山城が多く築かれた戦国時代の中で、松本城は景色の平成。桃山様式の優美な外観とともに、敵の侵入を防ぐ石落「いしおとし」や鉄棒狭間「てっぽうさま」などが見頃でした。

四日目には穂高町へ移動して温泉体験をしました。美しい景色を眺め温泉に入ってのんびりしていると、自然に恵まれた日本の素晴らしさが感じられました。夕方には食文化交流会があって、韓国の料理を作って一緒に食べながら楽しい時間を過ごしました。

五日目にはわさび農園を見学しました。冷たい水が流れている畑でわさびが生えているのを見て珍しかったです。昼には穂高神社を見て回って御船会館で穂高人形も見ました。夕方にはホームステイをしに日本人の家を訪問しました。心を込めた夕御飯をすてきな庭で食べたり、花火をしたり、シソジュースとお手玉を一緒に作ったりして楽しい時間でした。ホームステイをした時一番困ったことはトイレを使う時韓国では家主に何も言わずにトイレを使っていますが、日本の家庭では家主に「トイレを貸していただけませんか」と話した後、使うのが正しい礼儀だと聞きましたが、それがなかなか出来なかったので困りました。

六日目にはそば打ち体験をして、私たちが作ったそばを味わうことが出来て嬉しかったです。韓国にも日本のそばのようなカルグクスがありますが作り方がずいぶん違います。夕方には庭でバーベキューパーティをしながら別れを告げました。

私は年を取った学生なので、初めは若い学生と一緒に生活したら相手に迷惑を掛けるのではないかと思いましたが、参加したのを良かったと思います。私の日本への旅は今回が初めてではなかったのですが、今回ほどたくさんの日本人と触れ合う機会はありませんでした。何事もなく無事に研修旅行が終わったことをうれしく思うと同時に、この研修旅行のために協力して頂いた方々にこの場を借りて感謝申し上げたいと思います。

松本城にて

信州文化研修を参加して

カトリック大学言語文化学部２年
キム・ソヨン （日語日本文化専攻）

今回、私が前からずっと夢見ていた信州大学に行くことができたのでうれしかった。いつもいろいろお世話にたっているイ先生と日本語日本文化を専攻している学生たちがいっしょに１週間の文化研修を行った。

去年の夏休みに東京へ旅行をすることがあった。日本語があまりできなくて怖かったが、日本人が親切に案内してくれて楽しい旅行だった。今回の信州文化研修も先生と日本人の友だちがいろいろなことを手伝ってくれて本当にありがたく思う。カトリック大学で学んだことを実際に体験することができ、いい経験になった。もちろん１週間の短い経験で日本と日本人の文化をすべて理解することはできなかったが、すこし分かるようになった。文化は国ごとに違うので、先入観や偏見にとらわれないように気をつける姿勢が必要だと思った。誤解は互いの文化を理解しないことから起るからだ。

しかし、日本文化研修に行く前に、私もそんな先入観を持っていた。「近くて遠い国」という日本について否定的なイメージだった。また、教科書問題、竹島問題、政治・歴史問題など互いに敏感になる問題もあり心配だった。特に、歴史について興味がある私にとっては感情的になってしまう問題があった。だけど、日本の学生たちの事前にしっかりと計画を検討すること、こまやかな気配りに感動してしまった。いつも自分の仕事を成功させるため、全力を尽くして、じゅんびする姿勢を見て、私も学ぼうと思った。

わたしたちは幸に、初めて松本ぼんぼんに参加できた。ゆかたを着てかみもきれいにして、音楽の拍子に合わせながら踊りを踊ることは楽しかった。日本は祭りが全国各地で盛んだそうだ。このように地域社会が発達して、地域のさまざまな特色を生かすことはすばらしいと思った。

穂高町ではホームステイをしながら、日本の家庭を見ることができ、大切なものを得た。ホームステイ家族といっしょに食事をしたり両国の問題と関心事項について話したり花火を見たりすることが楽しかった。日本語がまだまだ下手なので間違った言葉を話しても家族が親切に教えてくれてコミュニケーションはできた。

今回の研修では目に映る文化から目に見えない感動まで多くのことを体験した。このように貴重な体験できるようにつとめてくださった先生方、信州大学の学生皆様に感謝いたします。

思い出と自信

カトリック大学言語文化学部２年
コ・ジュヒ（日語日本文化専攻）

毎年、カトリック大学と信州大学は交流をしています。いつも、信州大学から韓国に来ましたが、この間カトリック大学から日本に行けるようになりました。日本に行く前に、失策をするかどうか心配しました。なぜなら、私は日本語の勉強を１年ぐらいしたからです。けれども、初めて日本に行くようになって、うれしかったです。８月５日から８月１１日まで、ろっぱくなのかでした。松本ぼんぼんに参加することが一番たのしかったです。松本ボンボンの時、初めてゆかたを着て、髪もきれいにしました。みんなが一緒に舞いながら道を歩きました。テレビに見た日本の祭りを直接参加してとてもよかったです。日本の祭りは本当にすばらしかったです。日本の伝統文化を感じられました。でも、雨が降りましたから、少し残念でした。そして、ホームステイもたのしかったです。家族の皆さんはとても親切で優しかったです。そこにはゆかたをプレゼントをしてもらいました。あのゆかたを着て、家の外に花火をしました。今年の初め花火だったから、とてもきれいでよかったです。ホームステイの家族は韓国にとても関心があります。特に韓国のドラマに関心があります。それで、私に韓国の文化について質問をしました。また、ハングルも書きました。私が日本について習うことだけではなくて、私が韓国を紹介する機会もあってよかったです。ホームステイの前に、家族と一緒に韓国料理を食べました。食べながら、料理を説明してくれました。これは私にとって、プラスになる経験したと思っています。日本語で説明して、日本語の実力向上にも助けになったようです。お互いの国と言語について話しながらお互いについてもっと興味を持つようになったと思っています。韓国では「日本人と話してみたい」と思っていました。今度の機会に通じて、日本人と話してみて、日本の友たちができて本当にいい経験になりました。日本と韓国の大学生たちと一緒に生活して、いろいろな話しながらわからなかったお互いの文化を習われた大切な時間でした。それだけではなくて、いろいろな行事を一緒にして、小さいプレゼントを交換して、友たちができるいい機会でした。また、私にとっては日本語はもちろん日本人と会う時にも自信を持つようになりました。そこで感じること、思い出、いい人々との出会いなど全部忘れないで、記憶しています。